

# 令和7（2025）年度 事業報告書

（令和7（2025）年3月1日～令和8（2026）年2月28日）



公益財団法人  
藤澤記念財団

## I.基本方針

1. 教育の普及と機会均等の実現: 奨学金を通じて、教育の普及を促進し、社会的・経済的な制約による教育機会の格差解消を目指す。
2. 人材育成の支援: 奨学金を受けた学生が、優れた教育環境で学び、成長することを支援する。将来的に社会で活躍し、リーダーシップを発揮する人材を育成することを目指す。
3. 社会への貢献: 奨学金の受給者が、学術の成果や知識を社会に還元し、社会的な問題の解決や発展に貢献することを期待し、また、教育によって地域や国際社会に貢献する人材の育成を支援する。
4. 公益法人に求められるガバナンス体制を構築、社会の信頼を得た永続的な活動を行う。

## II.事業活動

### 1.奨学金事業

令和7（2025）年度は就学意欲がありながらも経済的理由により就学が困難な大学生及び大学院生が安心して学び続けるために奨学金の給付を行い、将来の目標とする仕事や夢が明確に描ける次世代を担う有望な人材の育成をはかり社会の発展に寄与することを目的として次の事業を行った。

#### (1) 音楽奨学金事業

##### (1-1) 募集概要

###### ① 募集期間

令和7（2025）年4月1日から令和7（2025）年6月10日まで

###### ② 受給期間

令和7（2025）年4月1日から令和8（2026）年3月31日まで

###### ③ 応募資格

(ア) 学資の援助をすることが必要であると認められる者

(イ) 将来社会的に有益な活動を目指す者

###### ④ 給付額

27名に対し月額3万円の6ヶ月分（18万円）を年2回、計36万円を給付。

(2) 応募結果

① 応募総数：52名のうち27名を奨学生として決定

※1名36万円、計972万円を給付

② 奨学生採用実績校一覧（50音順）

大学名	採用数(名)	大学名	採用数(名)
愛知県立芸術大学	1	相愛大学	2
エリザベト音楽大学	1	東京藝術大学	4
岐阜聖徳学園大学	1	桐朋学園大学	2
京都教育大学	1	桐朋学園芸術短期大学	1
京都市立芸術大学	2	名古屋音楽大学	2
国立音楽大学	1	フェリス女学院大学	2
国立大阪教育大学	1	平成音楽大学	1
神戸女学院大学	2	宮城学院女子大学	1
洗足学園音楽大学	1	武蔵野音楽大学	1
			計27名

(3) 選考スケジュール

下記の日時にて助成先の選考及び決議を行った。

① 選考委員会

開催日時：令和7（2025）年7月4日 15時より開催

開催場所：東京都港区南麻布四丁目5番48号 フォーサイト南麻布2階

※中西選考委員、藤田選考委員はリモート会議システムにより参加

② 理事会

開催日時：令和7（2025）年7月14日（Zoomにて開催）

(4) 活動報告

① 中間報告

ア. 奨学生Aさん

この度は奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。奨学金のご支援のおかげで、教職課程の勉強と専攻楽器であるトロンボーンの実習を両立しながら、充実した学校生活を送ることができています。

現在は、トロンボーンが使用される合奏系の授業をすべて履修し、学校を代表するマスターオーケストラをはじめ、吹奏楽やブリティッシュブラスなど、学内外の演奏機会に積極的に参加しています。出演にはオーディションが必要なため、すべての機会に挑戦し、演奏の場を得ることができています。

奨学金のおかげでアルバイトをせずに学業に集中できており、教職課程の授業も無遅刻・無欠席で取り組んでいます。昨年度に比べ、今年は月に一度以上の本番があり、演奏活動もより充実しています。経済的な理由で教職を諦めかけた時期もありましたが、学費や教材費に充てることができ、改めて深く感謝しております。

今後もこの支援に恥じぬよう、学業・演奏ともに精一杯努めてまいります。

#### イ. 奨学生 B さん

現在、卒業論文執筆に向けて知見を深め、視野を広げることに努めています。アニメーション映画の音楽をテーマに検討しており、関連文献や過去の論文を読みながら、独自のアプローチを模索しています。インプットとアウトプットを粘り強く続けながら、論文構成や焦点の絞り方を探っています。

副科のピアノでは、これまで挑戦してこなかった2台ピアノに取り組み、ソロ演奏とは異なる難しさや魅力を実感しています。大学で学んだソルフェージュや和声、プライベートで学習している作曲の知識を演奏に活かすことを大切にしています。

楽理科は他専攻に比べて奨学金制度が少なく、学びを経済的理由で制限せざるを得ない状況もありました。文献やCDの購入にも費用がかかる中、貴財団の奨学金を受給できたことは大変ありがたく、心より感謝しております。この支援のおかげで、学業に専念でき、充実した学生生活を送ることができています。今後もこの機会に恥じぬよう、勉学に励んでまいります。

#### ウ. 奨学生 C さん

現在は卒業論文の執筆に向けて、資料収集やゼミ・研究会での発表に取り組んでいます。今学期は音楽研究における「身体性」というテーマに焦点を当て、90年代以降の重要な著作の検討を進めており、成果は学内の中間報告会で発表予定です。

授業では学部に加え大学院のゼミも聴講し、資料整理や発表を通じて知的好奇心と研究能力を高めています。現在は日本音楽学会の学術誌『音楽学』への書評論文投稿に向けた準備も進めており、研究活動をさらに深めているところです。

今年度は大学院音楽研究科の入試を受験し、音楽史や音楽学の基礎を再確認する機会を得ました。研究計画の立案にあたり、人文学の多様なテクストを読み込んだ経験は、今後の研究の糧となっています。

音楽学は声楽や器楽、作曲といった実技分野に比べて認知度が低く、支援の機会も限られています。その中で貴財団の奨学生として採用いただけたことは、音楽文化の一端を担う分野として認められたように感じ、大きな励みとなりました。論文執筆や資料調査など困難な作業も多いですが、奨学金を支えに、今後も研究に邁進してまいります。

#### エ. 奨学生 D さん

前期は通常の授業やレッスンに加え、教職課程や2台ピアノの授業も履修し、全講義を欠席なく受講、成績もS・A評価で終えることができました。後期は他専攻の方から伴奏の依頼もいただいております、積極的に挑戦しながら経験を重ね、将来につなげていきたいと考えています。

初めての一人暮らしで学費や生活費に不安がありましたが、貴財団のご支援のおかげで学業に専念できています。朝や空き時間は大学の練習室、夜は自室で練習を重ね、前期の実技試験では納得のいく演奏ができました。

今後は伴奏や大きなコンクールなど、これまで経験のない挑戦が増えていくと思いますが、積極的に取り組み、自分自身と音楽の成長につなげていきたいです。改めて、温かいご支援に心より感謝申し上げます。

#### オ. 奨学生 E さん

現在は学業優先でアルバイトは週1回程度にとどまっていますが、生活費や学費の負担は大きく、貴財団からの給付金には大変助けられています。

専門のピアノ実技では、コンクール中心の生活から一歩離れ、レパートリーの拡充に注力しました。新たな作曲家の作品に取り組み、奏法や作風の多様性を学ぶことができました。加えて、パイプオルガンやチェンバロのレッスン、自律神経や筋肉の動きを測定する授業など、専門性を高める講義を受講し、SNSでの発信も続けています。

学外では、地元北海道での演奏活動に加え、「100万人のクラシックライブ」のオーディションに合格し、後期からは愛知でも演奏の機会を得ました。将来の選択肢として教職を視野に入れ、地元の教員採用試験に合格。進路が一つ定まったことで、残りの大学院生活により集中して取り組む意欲が高まっています。

奨学金のご支援のおかげで、学業や演奏活動に集中でき、非常に充実した学生生活を送ることができました。改めて心より感謝申し上げます。

### ② 終了報告

#### ア. 奨学生 A さん

この一年間、多大なるご支援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。奨学金ので、金銭的な不安に惑わされることなく、作曲と研究に没頭する充実した日々を過ごすことができました。

後期は「属性の異なる楽器によるアンサンブル」というテーマのもと、管・打・擦弦・撥弦楽器それぞれ一種ずつを用いた四重奏の制作に注力いたしました。なかでも初めて扱う楽器については、より深くその本質に触れるため自ら楽器を購入し、実際の奏法や響きの特性を研究いたしました。音の勢いが異なる楽器同士であって

も、工夫次第で絶妙な調和を生み出せると確信できたことは、私にとって大きな収穫となりました。また、友人からの依頼で取り組んだ小編成の編曲活動も、実演を意識した貴重な学びの場となりました。

どのようなジャンルや現場であっても、その場にふさわしい最善の楽譜を書き上げるプロとしての責任を果たしていきたいと考えております。

同時に、自身の創作活動も決して絶やすことはありません。小編成作品での実演機会の創出や、管弦楽作品でのコンクール入賞、さらには自作とクラシックを編み直す演奏会の企画など、やりたいことは尽きません。

「自分の考えを忠実に表現し、それが人へと伝わる作品を創る」

この信念を胸に、作曲と編曲のどちらにも真摯に向き合っています。

皆様からいただいた温かいご支援を糧に、これからも音楽の道を一步ずつ、大切に歩んでまいります。

#### イ. 奨学生 B さん

音楽ビジネスという専門領域において、講義での知識習得に加え、演奏会やミュージカルの企画・制作・運営といった実践の場で多くの経験を積むことができました。奨学金のおかげでアルバイトの時間を抑えられたことで、これまで制約のあった現場活動にも主体的に参加することができ、音楽を「伝える」ための多様な手法や、チームで一つの公演を創り上げる責任の重さを肌で感じることができました。

演奏者への支援に比べ、私のような企画・制作の立場を目指す者へのご支援は決して多くありません。そのような中で、私の志を認め、挑戦を支えていただいたことに深い感謝の念を抱いております。経済的な支えがあったからこそ、目の前の課題に妥協することなく、理想の公演を追い求めることができました。

来年度は、自主公演の企画やインターンシップへの挑戦、さらには広報技術の向上など、より現場に即した専門性を高めていく決意です。実演家を支え、より多くの人に音楽の魅力を届ける力を養ってまいりたいと思います。

皆様からいただいたご支援を糧に、将来は日本の音楽文化の発展に寄与できる存在になれるよう、より一層の努力を続けてまいります。一年間、温かい応援を本当にありがとうございました。

#### ウ. 奨学生 C さん

奨学金のおかげで、経済的な不安に縛られることなく、ピアノの研鑽と修士論文の準備に集中することができました。特に地元での演奏会に出演できたことや、火災に遭った音楽バーのために自らチャリティコンサートを企画し、寄付を届けられたことは、音楽家として大きな自信と学びになりました。また、昨夏の採用試験で地元の音楽教諭としての道が決まったことも、皆様の支えがあったからこそと深く感

謝しております。

いよいよ四月からは修士課程の最終学年です。修士演奏や論文の執筆に加え、コンクールへの挑戦など、乗り越えるべき壁はたくさんありますが、来春から自信を持って教壇に立てるよう、一日一日を大切に努力を続けてまいります。

これからも真摯に音楽に向き合ってまいります。

#### エ. 奨学生 D さん

奨学金のおかげで、コンクールや各種セミナーへ積極的に挑戦することができました。

コンクールでの上位入賞を果たし、セミナーでも選抜コンサートへ推薦いただくなど、自身の学びを確かな成果へと繋げることができました。

幼い頃から抱いてきた「ヨーロッパで音楽を学ぶ」という夢がいよいよ現実のものとなります。現地では、国際的な視点で音楽への理解を深めるとともに、国際コンクールや音楽祭への参加を通じ、自らの音楽を積極的に発信してまいり所存です。また、私の生涯の目標である「チャイコフスキー国際コンクール」への挑戦に向け、この留学期間を一生の糧となるような実りある時間にしたいと考えております。

支援いただいた奨学金は、これまで大切に活用させていただくとともに、今後の挑戦に備えて将来の活動資金として計画的に運用させていただきます。

皆様に支えられて踏み出すこの一步を大切に、いつか大きな舞台での成果をご報告できるよう、全力で取り組んでまいります。

一年間、温かいご支援を本当にありがとうございました。

#### オ. 奨学生 E さん

自身の課題と向き合い、新たな世界に足を踏み出した挑戦の一年でした。実技試験では悔しい思いもいたしましたが、それを機に自身の弱点を痛感できたことは大きな糧となりました。また、管楽器の伴奏を数多く引き受けたことで、アンサンブルにおいて「相手が吹きやすい演奏」を追求する大切さを学ぶことができました。

なかでも、オーケストラのピアノ奏者として参加したウィーン公演を無事に終えられたことは、私にとって何よりの達成感となりました。折からの情勢不安により渡航費がかさみ不安もありましたが、奨学金のおかげで、この貴重な機会を諦めることなく完遂することができました。この経験が認められ、次回の定期演奏会でもバーンスタインの「シンフォニック・ダンス」という大曲をお任せいただくことになり、今から期待に胸を膨らませております。

新年度は、クラシックとジャズの練習方法の違いに悩みながらも、アドリブの語彙やコードへの理解を深めるなど、自分に足りない部分を一つずつ克服していく決意です。また、副科のチェロの練習時間もしっかりと確保し、音楽的な幅をより広

げてまいりたいと思います。

のびのびと学業に励む環境を支えてくださった皆様への感謝を忘れず、去年度の学びを次なる一歩へと繋げていけるよう、より一層精進してまいります。

### Ⅲ.法人運営

#### 1.理事会・評議員会の開催

##### (1) 理事会

- ① 開催日：令和7（2025）年4月4日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 資金運用規程および有価証券取扱規程に基づく株式取得の件
- ② 開催日：令和7（2025）年5月9日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 令和6（2024）年度事業報告の件  
第2号議事 令和6（2024）年度決算報告の件  
第3号議事 評議員会の招集の件  
報告事項 代表理事の職務執行状況報告
- ③ 開催日：令和7（2025）年7月14日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 音楽奨学金の応募選考結果に基づく給付承認の件
- ④ 開催日：令和7（2025）年12月15日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 資金運用規程および有価証券取扱規程に基づく株式取得の件
- ⑤ 開催日：令和8（2026）年2月13日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 令和7年（2025）度収支予算変更の件  
第2号議事 令和8年（2026）度事業計画の件  
第3号議案 令和8年（2026）度収支予算の件  
報告事項 職務執行状況報告

##### (2) 評議員会

- ① 開催日：令和7（2025）年5月24日（Zoomにて実施開催）  
第1号議事 令和7（2025）年度事業報告の件  
第2号議事 令和7（2025）年度決算報告の件

#### 2.その他

##### (1) 運営組織に関する重要な事項

当法人においては、評議員、理事および監事に対する報酬等の支給基準に基づき、すべての評議員、理事および監事は無報酬であるため、報酬等の総額はなく、また、2,000万円を超える報酬・給与を受けている者もおりません。

##### (2) 事業活動に関する重要な事項

①関連当事者との取引について

当法人においては、当該事業年度において関連当事者との取引は確認されておりません。

②海外への送金の有無及びリスクの軽減策について

当法人は、当該事業年度において海外への送金は実施しておらず、それに関連するリスクも存在しないため、特段のリスク軽減策は講じておりません。

(3) 令和7（2025）年度事業報告の附属明細書

令和7（2025）年事業年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。

以 上